

リスク評価(一次)評価Ⅰの結果を踏まえた対応

優先評価化学物質の番号	優先評価化学物質の名称	リスク評価(一次)評価Ⅰの結果を踏まえた対応
1	二硫化炭素	評価Ⅰ継続
2	ヒドラジン	評価Ⅱ着手(人)
3	n-ヘキサン	評価Ⅰ継続
4	1,3-ブタジエン	評価Ⅱ着手(人)
5	イソブレン	評価Ⅰ継続
6	クロロメタン(別名塩化メチル)	評価Ⅰ継続
7	ジクロロメタン(別名塩化メチレン)	評価Ⅱ着手(人)
8	クロロホルム	評価Ⅰ継続
9	ブロモメタン(別名臭化メチル)	評価Ⅰ継続
10	クロロエタン	評価Ⅰ継続
11	1,2-ジクロロエタン	評価Ⅰ継続
12	1,2-ジクロロプロパン	評価Ⅱ着手(人)
13	クロロエチレン(別名塩化ビニル)	評価Ⅱ着手(人)
14	1,3-ジクロロプロペン(別名D-D)	評価Ⅱ着手(生態)
15	メチルアミン	評価Ⅰ継続
16	ジメチルアミン	評価Ⅰ継続
17	テトラメチルアンモニウム=ヒドロキシド	評価Ⅰ継続
18	ニトロメタン	評価Ⅰ継続
19	エチレンオキシド	評価Ⅱ着手(人)
20	1,2-エポキシプロパン(別名酸化プロピレン)	評価Ⅱ着手(人)
21	1,2-エポキシブタン	評価Ⅰ継続
22	エピクロロヒドリン	評価Ⅰ継続
23	エチレングリコールモノメチルエーテル	評価Ⅰ継続
24	2-(1-メチルエトキシ)エタノール	評価Ⅰ継続
25	ホルムアルデヒド	評価Ⅱ着手(人)
26	アセトアルデヒド	評価Ⅰ継続
27	N,N-ジメチルホルムアミド	評価Ⅰ継続
28	酢酸ビニル	評価Ⅰ継続
29	メチル=ドデカノアート	評価Ⅰ継続
30	N,N-ビス(2-ヒドロキシエチル)オレアミド	評価Ⅰ継続
31	アクリル酸メチル	評価Ⅰ継続
32	アクリル酸エチル	評価Ⅰ継続
33	アクリル酸n-ブチル	評価Ⅱ着手(生態)
34	アクリルアミド	評価Ⅰ継続
35	メタクリル酸	評価Ⅰ継続
36	エチレンジアミン四酢酸	評価Ⅰ継続
37	ニトリロ三酢酸	評価Ⅰ継続
38	アセトニトリル	評価Ⅰ継続
39	アクリロニトリル	評価Ⅱ着手(人)
40	チオ尿素	評価Ⅰ継続
41	テトラエチルチウラムジスルフィド(別名ジスルフィラム)	評価Ⅰ継続
42	ビス(N,N-ジメチルジチオカルバミン酸)N,N'-エチレンビス(チオカルバモイルチオ亜鉛)(別名ポリカーバメート)	評価Ⅰ継続
43	ヘキサメチレン=ジイソシアネート	評価Ⅰ継続
45	ベンゼン	評価Ⅱ着手(人)
46	トルエン	評価Ⅰ継続
47	スチレン	評価Ⅰ継続
48	イソプロペニルベンゼン(別名 α -メチルスチレン)	評価Ⅱ着手(生態)
49	1,2,4-トリメチルベンゼン	評価Ⅰ継続
50	エチルベンゼン	評価Ⅰ継続
51	ベンジル=クロリド(別名塩化ベンジル)	評価Ⅰ継続
52	o-ジクロロベンゼン	評価Ⅰ継続
53	p-ジクロロベンゼン	評価Ⅱ着手(生態)
54	アニリン	評価Ⅰ継続
55	m-フェニレンジアミン	評価Ⅰ継続
56	o-フェニレンジアミン	評価Ⅰ継続
57	o-トルイジン	評価Ⅱ着手(人)
58	o-クロロアニリン	評価Ⅰ継続
59	ニトロベンゼン	評価Ⅰ継続
60	p-クロロニトロベンゼン	評価Ⅰ継続

61	ジニトロトルエン	数量監視 (年間推計排出量 1t以下)
62	フェノール	評価Ⅰ継続
63	2, 4-ジ-tert-ペンチルフェノール	数量監視 (年間推計排出量 1t以下)
64	2, 6-ジ-tert-ブチル-4-メチルフェノール	評価Ⅱ着手(生態)
65	ピロカテコール(別名カテコール)	評価Ⅰ継続
66	フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)	評価Ⅰ継続
67	テレフタル酸ジメチル	評価Ⅰ継続
68	テレフタル酸	評価Ⅰ継続
69	1, 2, 4-ベンゼントリカルボン酸1, 2-無水物	評価Ⅰ継続
70	オクタデシルアミン(N-B)トリフェニルボラン	評価Ⅰ継続
71	[3-(2-エチルヘキシルオキシ)プロピルアミン]トリフェニルホウ素(Ⅲ)	評価Ⅱ着手(生態)
72	4, 4'-ジアミノジフェニルメタン(別名4, 4'-メチレンジアニリン)	数量監視 (年間推計排出量 1t以下)
73	4, 4'-ジアミノ-3, 3'-ジクロロジフェニルメタン(別名4, 4'-メチレンビス(2-クロロアニリン))	数量監視 (年間推計排出量 1t以下)
74	メチレンビス(4, 1-フェニレン)＝ジイソシアネート	評価Ⅰ継続
75	4, 4'-イソプロピリデンジフェノール(別名4, 4'-イソプロピリデンジフェノール又はビスフェノールA)	評価Ⅱ着手(生態)
76	ナフタレン	評価Ⅰ継続
77	ジシクロペンタジエン	評価Ⅰ継続
78	3, 3'-ジクロロベンジン	数量監視 (年間推計排出量 1t以下)
79	ビシクロ[2. 2. 1]ヘプタン-2, 5(又は2, 6)-ジイル＝ジシアニドの混合物	評価Ⅰ継続
80	1, 4-ジオキサン	評価Ⅰ継続
81	モルホリン	評価Ⅰ継続
82	ε-カプロラクタム	評価Ⅰ継続
83	ピリジン-トリフェニルボラン(1/1)	評価Ⅰ継続
84	ビス(2-スルフィドピリジン-1-オラト)銅	評価Ⅰ継続
85	ジカリウム＝ピペラジン-1, 4-ビス(カルボジチオアート)	評価Ⅰ継続
86	α-(ノニルフェニル)-ω-ヒドロキシポリ(オキシエチレン)(別名ポリ(オキシエチレン)＝ノニルフェニルエーテル)	評価Ⅰ継続
87	4, 4'-イソプロピリデンジフェノールと1-クロロ-2, 3-エポキシプロパンの重縮合物(別名ビスフェノールA型エポキシ樹脂)(液状のものに限る。)	評価Ⅰ継続
88	シクロヘキサ-1-エン-1, 2-ジカルボキシイミドメチル＝(1RS)-cis-t rans-2, 2-ジメチル-3-(2-メチルプロパー-1-エニル)シクロプロパンカルボキシラート(別名テトラメリン)	数量監視 (製造・輸入数量 10t以下)

<リスク評価(一次)評価Ⅰの結果を踏まえた対応の説明>

評価Ⅰ継続: 当面の間、リスク評価(一次)評価Ⅰを行い、優先順位を見直す。

評価Ⅱ着手(人): 人健康影響の観点で、平成24年度からリスク評価(一次)評価Ⅱに着手する。

評価Ⅱ着手(生態): 生態影響の観点で、平成24年度からリスク評価(一次)評価Ⅱに着手する。

数量監視: 当面の間、数量監視を行う。

<平成24年度からリスク評価(一次)評価Ⅱに着手する物質の選定根拠について>

【人健康影響】

○以下を満たす物質を選定。

- ・人に対する発がん性があると分類されている物質(発がん性の有害性クラス1等の物質)。
- ・上記以外で一般毒性、発がん性、変異原性のリスク懸念の可能性がいずれも高い物質(発がん性の有害性クラス2かつ変異原の有害性クラス2の物質で、推計排出量が多く、かつ、一般毒性についてリスク懸念箇所が多い/リスク懸念影響面積が広い物質)。

【生態】

○以下を満たす物質を選定。

- ・リスク評価(一次)評価Ⅰの結果、リスク懸念の箇所が1カ所以上ある。
- ・藻類、ミジンコ、魚類の3つの栄養段階全てについて利用可能な有害性情報が得られている。